



伊藤とし子
佐倉市・酒々井町選出
県議会議員

千葉県へ 予算要望・政策提案

毎年、市民ネットワーク千葉県では来年度に向けて200項目にも上る「予算要望と政策提案」を知事へ提出しています。作成過程で県の担当課にヒアリングする際は、県議だけでなく会員も参加し、活発に質問をしています。これは県議を送り出してから20数年間「市民参加」として続けてきました。また、昨年に続いて、各市区ネットが聞き取りをした市民団体からの要望も盛り込みました。提案したなかからタイムリーな政策を紹介します。

コロナ対策は待ったなし

第7波の感染爆発で医療はほぼ崩壊状態です。高熱

が出て抗原検査が陽性だったのに、何百回電話をかけても発熱外来につながらない、救急車が来たけれど搬送する病院が無くそのまま帰ってしまったなど、日常茶飯事に起こっています。自宅療養で亡くなっている状況は、第6波の反省が全く生かされていません。ドライブスルーの発熱外来設置など臨機応変に対応すべきです。

学校給食の無償化と有機化を

国は「みどりの食料システム戦略」で2050年までに農業を50%減らし、耕地面積の25%を有機農業に、学校給食を地場産農産物にすることを目標としています。有機給食を進めることで有機農家が増え、地域農業の振興、食料自給力アップにつながります。何より、発達期の子どもの健康を守るためにも重要です。千葉県は今年度中に子どもの多い世帯を対象に給食の無償化を打ち出しました。食材費を安く抑えるのではなく、千葉県の農業を発展させるためにも有機給食とセットで取り組んでいくべきです。

病室を教室に

小児がん等で長期入院が必要となった児童生徒、特に高校生が病室でリモート授業が受けられる体制づくりが急務です。本年4月、愛知県では高校と病院をつなぐ専門家を置いて、テレボ10台を準備しました。高校生は退院後の進路にもかかわり休学や退学することなくクラスメートと一緒に勉強することで意欲もわき、病気に打ち勝つ力にもなります。早急な取り組みが求められます。



テレボは教室内に置いたカメラを病室など遠隔から操作できるロボットシステム

地球温暖化対策に省エネ住宅を

異常気象が頻発しています。「2050ゼロカーボン」を実現するために、再生エネルギーの推進とともに省エネルギー住宅は不可欠です。高断熱で熱効率のいい「省エネ住宅」は、冬のヒートショックを防ぐため健康住宅ともいわれます。地元の工務店が請け負える千葉県推奨モデルを打ち出したらどうでしょうか。

ゲノム編集トマトの苗を配布!?

小学校に

～県内市町村にアンケートを実施～

サナテックシード社はゲノム編集により開発したGABA高含蓄トマトの苗を、今年は福祉施設に、そして来年は教育施設へ無償配布する計画を発表しました。ゲノム編集食品の問題点は、従来の遺伝子組み換え食品と違い、外から別の遺伝子を入れないという理由で、安全審査は行われず、表示義務也没有。予期せぬ突然変異により、人体に危険な食品を生み出す可能性もあり、安全性が確立されていないため、警鐘を鳴らしている科学者もいます。このような苗を小学校に配布し、何も知らない子どもたちに育てさせることは、ゲノム編集食品に対する抵抗感をなくすため、スムーズに市場に出回らせるためという策略と考えられます。

私たちは5月に、ゲノム編集トマトの苗を受け取らないよう、千葉県の全54市町村の首長と教育長あてに要望書を提出しました。要望書と一緒にアンケートを実施し、〈①受け取らないよう指導する ②指導しない ③その他〉の3つの選択を示し、理由の回答も頂くよう求めました。「新たな毒性やアレルゲン、がん誘発物質の発生が危惧されているため受け取らないよう指導する」としっかりとした態度を示す自治体もありました。アンケートを通して感じたことは、無難に「その他」とする自治体が多かったこと。そして、まだ無償配布の話が来っていないので、来てから考える旨の回答です。苗の配布の話が来る前に、自治体の各施設や関係部局でどのような対応を取るべきかしっかりと準備するべきと考えます。「国が安全性を認めているので…」という回答もありました。国が認めていても子ども達の安全を考えて自治体判断で決めるべきです。自治体主体で安全性の確立されていないものは受け取れないという判断がされるよう、引き続き声を上げていきます。

松島こずえ（佐倉市議会議員）

地域ネットの活動から みはまネット

児童相談所にパンを届けるプロジェクト

千葉市の児童相談所は、みはまネットの事務所と同じ区内に設置されています。所内の一時保護所には、親の病気や死別、また虐待を受け家庭で過ごすことのできない子どもたちが一時的に保護されています。通学も外出も買い物などもできず、かなり窮屈な生活をしている子どもたちに少しでも楽しい時間を持って欲しいと思い、2020年秋から「児童相談所にパンを届けるプロジェクト」を始めました。

キッカケは一時保護所の食事ではパン食が多くないことを知ったこと。もちろん好きな菓子パンなどは食べられません。みはまネットでは以前から就労支援施設で営業しているベーカリーで週1回パンを配達してもらっていました。そこで一時保護施設にパンを届けることに協力をお願いしたところ、快く受けていただき計画が進みました。

実施するためには、資金が必要です。みはまネット通信で寄付を募ったところ「子どもたちの笑顔に協力したい」と多くの寄付が寄せられました。

月1回、パンを届けても、子どもたちに会うことはできませんが「クリの入ったパンがおいしかった」「ありがとうございました」「今度はメロンパンが食べたいです」などと書かれた手紙や手作りの飾りをいただくことがあります。心のこもったお礼は、私たちをやさしい気持ちにさせてくれます。

寄付というカタチで協力していただいている皆さんに感謝し、月1回のプレゼントを心を込めて届けています。（関根）



直筆の手紙、手編みのアマビエや折り紙のツリーなどをいただきました。

市民ネットワーク・みはま <https://mihama5005.chiba.jp/>

▶ 各ネット連絡先

市民ネットワーク・のだ ☎04-7123-6981	市民ネットワークみはま ☎043-278-5005
市民ネットワークふなばし ☎047-426-8321	市民ネットワークわかば ☎043-284-2339
さくら・市民ネットワーク ☎043-462-0618	市民ネットワーク中央 ☎043-379-4958
よつかいどう市民ネットワーク ☎043-304-3823	市民ネットワークいなげ ☎043-379-4958
きさらづ市民ネットワーク ☎0438-36-0677	市民ネットワーク花見川 ☎043-379-4958
市民ネットワークちば ☎043-379-4958	市民ネットワークみどり ☎043-379-4958

国葬反対



安倍元首相の「国葬儀」閣議決定に反対し撤回を求める声明を7月26日発表し、8月31日には国葬反対の署名を集めながら街宣行動を行いました。また各市での街宣活動や、他団体と共同しての活動も行いました。